

みなさまの保険情報

INSURANCE INFORMATION

株式会社 弥生保険事務所

TOPIC

飲酒運転根絶へ 行政処分さらに強化 飲酒・ひき逃げの「欠格期間」を 5年から10年に

3年前（平成18年）の8月、福岡県で家族5人が乗る乗用車に飲酒して運転していた車が追突し、乗用車は欄干を突き破って博多湾に転落、3幼児が死亡するという痛ましい事故はまだ記憶に新しいところです。この事故をきっかけに飲酒運転への厳しい世論が高まり、社会問題となりました。その後、各方面の取り組みによって減少傾向にありますが、依然として飲酒運転による事故は後を絶たない状況です。

警察庁は6月1日から道路交通法施行令を改正施行し、飲酒運転根絶へ罰則をより強化、厳罰主義で臨むことになりました（処分例・表）。

● 「免許欠格期間」の延長

免許を取消された場合の欠格期間の上限を5年から10年に延長

● ひき逃げ（救護義務違反）の厳罰化

免許を取消された場合の欠格期間の上限を5年から10年に延長

ひき逃げは特定違反行為となり単独で免許取消、違反点35点で欠格期間は3年。ほかの違反と合わせると欠格期間は最長10年となりました。

また悪質・危険運転にも厳しい罰則が新設されました。運転殺人等は違反点62点、運転傷害等45～55点

（負傷の程度による）、危険運転致死62点、危険運転致傷45～55点（負傷の程度による）。

免許証の取り消しは違反点数が15点以上ですが、今回の改訂では呼気中0.25mg以下の酒気帯びでも、過去に信号無視や一時不停車など2点以上の違反があれば取消し処分を受けることになります。

75歳以上の免許更新に「認知機能検査」を導入

今回の改正では高齢者対策も盛り込まれました。75歳以上の方が免許証の更新をする際には「高齢者講習」の前に「講習予備検査（認知機能検査）」を受けることが義務付けられました。有効期限が今年12月1日以降の人が対象で、運転免許証有効期限の6カ月前から受けられます。予備検査の結果、記憶力、判断力が低くなっていると判定され、特定の交通違反があれば専門医の診断を受け（臨時適性検査）、認知症と判断されると免許が取消または停止されます。

キーワード

欠格期間

政令で定める基準に従い免許を与えないか保留し、または免許を取消すか免許の効力を停止する期間。運転免許を再取得するためには欠格期間が満了し、取消処分者講習を受講、終了することが条件。

行 為	改 正 前			改 正 後		
	違反点	処分内容	欠格・停止期間	違反点	処分内容	欠格・停止期間
酒酔い運転	25点	免許取消	2年	35点	免許取消	3年
酒気帯び運転	0.25mg以上	13点	免許停止	25点	免許取消	2年
	0.25mg未満※	6点	免許停止	13点	免許停止	90日
ひき逃げ（救護義務違反）	23点	免許取消	2年	35点	免許取消	3年
酒酔い運転 + ひき逃げ	48点 + 事故点	免許取消	5年	70点 + 事故点	免許取消	10年
酒気帯び運転 + ひき逃げ	0.25mg以上	36点 + 事故点	免許取消	60点 + 事故点	免許取消	8～10年
	0.25mg未満※	29点 + 事故点	免許取消	48点 + 事故点	免許取消	6～9年
危険運転致死 傷罪	死亡	45点	免許取消	62点	免許取消	8年
	傷害	45点	免許停止	45～55点	免許取消	5～7年

（注）欠格期間の例示は過去3年以内に前歴がない場合 ※印 呼気1リットル中0.15mg以上0.25mg未満のアルコール保有状態を示します

交差点は危険な場所！

歩行者・自転車は？車間は大丈夫？— ルール守り余裕を持って運転しよう！



いっこうに減らない自動車事故に、何か打つ手はないのか—シリーズ第2回目は(社)日本損害保険協会が呼びかけている「交差点は危険な場所」をご紹介します。

平成19年中に全国で発生した83万件の交通事故のうち、交差点およびその付近で発生した人身事故は56%を占め、死亡事故は約半数の46%を占めています。したがって、交差点は非常に危険なところといえます。

交通事故はなぜ起こるか

交通事故の発生要素として、「人」「車」「道路環境」の3つが挙げられ、いずれかが重なり合って発生しています。人間は通常歩行で時速4km、オリンピック選手でも時速20kmしか出せません。これが「人間のスピード限界」です。

一方、車は人間の能力をはるかに超えるスピードで走行できます。そこで、車を安全に運転するために人間のスピード限界に対応できるようさまざまな能力や注意力、車の各種の安全装置、道路環境整備といったサポートが必要です。

市街地走行の注意点

市街地を走行するときは、次の状況に注意が必要です。

- 歩行者や自転車の行動はどうか
- 信号の表示はどうか
- 標識は見やすいか
- 道路は直線かそれともカーブか
- 夜間は街路灯などで周りが見にくくないか

- 交差点内では更に対向車のスピードと距離、対向車の陰にバイクはないか
- 交差点は直角に交わっているのかカーブしているのか

活用しよう「全国交通事故多発交差点マップ」ウェブサイト

日本損害保険協会では全国47都道府県の事故多発交差点情報(内容は交差点が特定できる、事故の特徴や原因に基づく安全な通行方法、交差点の構造や周辺)が分かるようグーグルマップの活用などを掲載した「全国交通事故多発交差点マップ」ウェブサイトを作成し、公開しています。

(<http://www.sonpo.or.jp/protection/kousaten/kousatenmap/>)

活用方法は、例えば一般市民の方は日頃から交差点に注意したり、他の地域の交差点の事故状況を見ることが、どういうことに注意したらよいか分かります。また地域、小学校あるいは高齢者のための交通安全マップの作成等の取り組み、企業等であれば円滑な運行計画を立てられます。道路管理者は、改善すべき交差点と改善方法を検討するための資料として活用でき



ます(これまで全国8箇所改善されました)。

基本はルール・マナーの遵守

交通事故防止にはドライバーをはじめ歩行者等も、交通ルールやマナーの遵守が基本で、もっとも大切です。

一方、道路を走行していると運転操作で判断に迷うような場面がしばしばあります。判断に迷う、あるいは誤らせるような構造となっている交差点については、円滑な通行ができるように改善していくことが大切です。

このように、多くの方に役立つウェブサイトとなっていますので、是非一度覗いてみてください。



交通事故0への願い 交通事故による死傷者は年間100万人にもなっています。政府は「交通事故のない社会」を目指し交通安全基本計画を推進していますが、その骨格は「人優先の思想」。ドライバーは特に高齢者・障害者・子ども等交通弱者への配慮を—と呼びかけています。



悩める人材の「心」のひび、放置してはいませんか？

東京海上日動リスクコンサルティング(株) 経営リスクグループ 小室 美絵

仕事に対する価値観の多様化や成果主義の硬直的な運用に伴う弊害を背景に、世界経済の長期低迷を受けた派遣切り等の暗い話題が続く昨今、「心身ともに健康で優秀な人材」を労働市場から新規調達できるチャンスはごく稀です。厚生労働省のまとめでは、過労を原因とする心の病（うつ病等）の2008年度労災認定は過去最多の269人に上ったとされています。過当競争にさらされた多くの企業にとって成長と存続を託すべき『最後の砦』となる人材が、まさに枯渇の危機に瀕しているのです。

「仕事に関する意識調査」より

全国の20代～50代の勤労者1,031名を対象に東京海上日動リスクコンサルティングが実施した2008年の調査結果では、モチベーション喚起要因の年代による特徴的な違いが見られます。

(図参照)モチベーション格差が増大する30代では新たな技術や知識の習得、キャリア形成等、市場での自己優位性に資する付加価値創出の可能性が最大の関心事となります。評価が実感できて儲かりそうな仕事を志向する20代では、周囲に「認められること」「褒められること」を切望しつつも関わる業務を限定され、手応えも感じられずにいる現実が見え隠れします。40代、50代では仕事を通じた自己実現のあり方に力点を置く一方、金銭的な報酬によるインセンティブは、家計が必要

とする生活費の額に比例して作用するものと推測できます。

調査結果を活かした人材戦略の設計

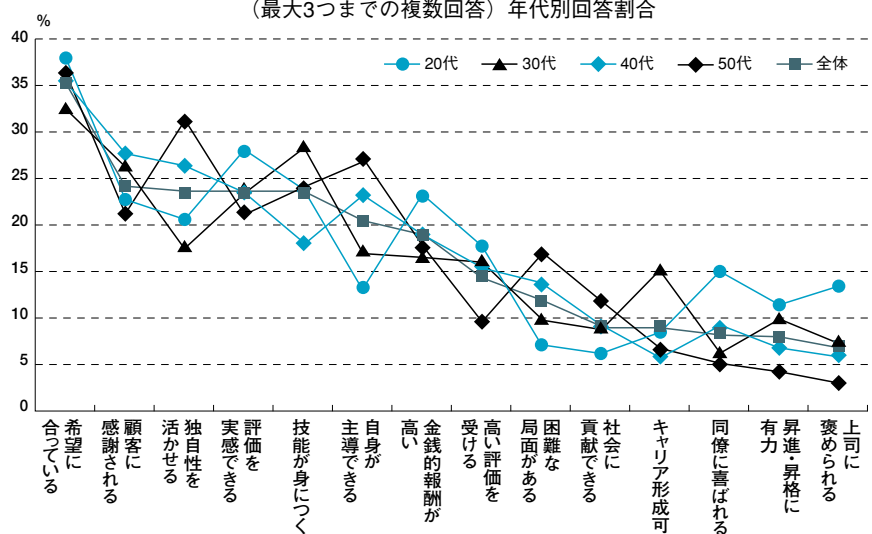
モチベーション刺激要因の年代別傾向を企業独自の業態や風土、人事戦略および財務状況に照らして分析・評価し、人事考課制度（賃金体系）の再設計に活用すれば、現実的な枠組み作りと経営資源の再配分が可能になります。例えば、困難な局面に強い50代と及び腰の若手ペアを大型案件の担当にすれば、仕事の評価や達成の喜びを体感させつつ技術継承を図る道が模索できます。企業の未来を担うべき中核人材には、個々のキャリアプランとパフォーマンス評価を連動させる作戦で臨みます。意欲が成果を呼び、次なる付加価値を原動力に業務遂行能力が最大化するような好循環を生み出す上、必要人材の定着を促すのです。た

だし留意すべき点もあります。

適切な労務管理の重要性

メンタル不全がクローズアップされ、使用者の安全配慮義務違反が労災認定の要件となる現代においては、業務起因性を否定するに足る根拠整備の重要性から、ライン（管理職）によるケアは必要不可欠です。部下への関与（業務配分の負荷調整を含む具体的な救済措置）不足や過労死認定基準を上回る残業実態の放置等がまた、慰謝料請求訴訟における企業側敗訴要因となり得ます。既存人材の有効活用およびリスク低減化の観点から、メンタルヘルス悪化の予兆となるモチベーション変動の推移をも評価指標とし、管理職からの積極的な働きかけによる日常コミュニケーションを通じて「心」に入ったひびの早期発見・早期修復に努める姿勢が望まれます。

● 図：モチベーションを高める仕事 ●
 設問 「あなたはどんな仕事をする時にやる気が高まりますか」
 (最大3つまでの複数回答) 年代別回答割合



(東京海上日動リスクコンサルティング(株) 2008年「仕事に関する意識調査」より)



「過労死認定基準」とは？ 「過労死」の労災認定を巡り、平成13年に厚生労働省が「脳・心臓疾患の認定基準(改正)」を発表しました。近年は、うつ病に起因する自殺についても、この基準が適用されつつあります。

救急医療を大切にすることは 命を大切にすること

昨今、各メディアで医療に関する話題が多く扱われています。中でも「患者のタライまわし」に関しては大々的な報道がなされました。今回は現在救急医療がどのような状態にあるのかを考えてみましょう。

24時間365日「いざというとき」の救急医療

深夜の救急室に「明日から旅行に行くので薬が欲しい」「夜でもやっているから」など苦痛にうなだれる患者を横目に、多くの患者が訪れます。また「酔った」「深爪」を理由に救急車で来院するなど、一刻を争う救命救急の現場にそぐわない事態が急増しています。この結果、待合室は患者で溢れ、本当に緊急性の高い患者の治療に影響を与えています。

このような事態を回避し「いざという時」の体制を維持する為には、各々が適切に病院を利用する事が不可欠です。とは言っても、仕事が忙しく通常の時間に受診出来ないという方も多いと思います。しかしこれは皆様の大切な体の話なのです。具合が悪い時に適切に受

診を行うことで、より悪化し救急車で搬送され、多くの治療や即入院などの事態を防げるかも知れません。多くの情報が得られる現代だからこそ、病院を上手に使い日頃から健康管理を行うことを心がけましょう。

また、医療機関が発信している健康情報などにも目を通し、正確な情報を得る事も必要です。ただし、「胸が苦しい」「身体が動かない」「骨折してしまった」…など“非日常”が起きてしまったら、何よりも安心・安全のために早期

の受診をおすすめします。それらに対処するのが救命救急の本来の仕事なのです。

助かる命をより多く

ここ数年、看護師が待合室で問診し、早急な診察を必要とする患者のトリアージ（選別）体制も根付き、最善の医療をスムーズに行えるようになりました。

しかし、安易な受診は夜間休日の限られた医療体制の中で、一刻を争う患者の救命の機会を奪う事になりかねません。今愛する人を、家族を、そして自分自身の生命を守るため、地域の救急医療体制が適切に機能するには、皆様の協力が必要不可欠です。我々医療者とお互いに手を取り合い、最善の医療環境を作り上げましょう。そして皆様の健康と、笑顔での生活を救急室の窓から心より祈っています。
(鎌ヶ谷総合病院 救急部副部長 長岡 信)

チームマイナス6%運動のワンポイント行動アドバイス

夏の暑さの正体は「輻射熱(ふくしゃねつ)」

夏の暑い日、風通しの良い薄手の長袖を着るレディが多い。タンクトップに短パンよりも涼しく過ごせるそうです。その理由は「輻射熱」の遮断。建物の中にも原理は同じ。カーテンを閉めたり、簾(すだれ)を掛けたり、緑のカーテンを育てると、エアコンがなくても涼しい夏が体感できます。



損害保険のプロフェッショナル「日本代協認定保険代理士」

みなさまに信頼されるプロ代理店として活躍しています。

平成21年1月1日をもって「日本代協認定保険代理士」が全国で約7,000名となりました。

株式会社 弥生保険事務所 損害保険・生命保険代理店

〒540-0032
大阪市中央区天満橋京町2番13号(ワキタ天満橋ビル7F)
TEL:06-6942-2801 FAX:06-6942-9173
E-mail: info@yayoi-hoken.co.jp
URL: http://www.yayoi-hoken.co.jp/

日本代協はチームマイナス6%に参加しています

◆営業種目◆

- ◆保険業務 生命保険 損害保険
 - ◆コンサルタント業務 診断・ライフシミュレーション
- ご加入の保険をチェックしてみませんか

取扱保険会社

- ・三井住友海上 東海日動 ニッセイ同和 他
- ・三井住友海上きらめき生命
- ・東京海上日動あんしん生命



— 契約者・消費者のために! —
加入 日本損害保険代理業協会正会員
ホームページアドレス <http://www.nihondaikyoo.or.jp/>